

企画展「弥生ファッション～紡ぐ、織る、染める」主な展示品

	1 樹皮製品【重要文化財】 ようかいちじかた 八日市地方遺跡（石川県小松市） 弥生時代 小松市埋蔵文化財センター蔵・写真提供 木から樹皮を取った後、素材として巻いて保管したことが分かる資料。編むための素材か織るための素材かは分からないが、植物繊維が残存する事例は多くはなく、巻いて保管していたことが分かる資料として貴重である。
	2 軸付紡錘車 じくつきぼうすいしゃ きとらがわ 鬼虎川遺跡（大阪府東大阪市） 弥生時代中期 東大阪市蔵・本館撮影 糸を紡ぐ際に利用されていた道具。円形の錘の中心に木製の軸を通す構造であるが、同時に出土するのは珍しく、本例は全国で二番目に古い出土例である。
	3 鯨骨製紡錘車【重要文化財】 げいこつせいぼうすいしゃ からこ かぎ 唐古・鍵遺跡（奈良県磯城郡田原本町） 弥生時代中期 田原本町教育委員会蔵・本館撮影 糸を紡ぐ際に利用されていた円盤状の錘。弥生時代は土、石などでつくられることが多いが、鯨の骨でつくられた例は、全国的に見ても珍しい。
	4 布送具 ぬのおくりぐ いかり 碓 遺跡（滋賀県米原市） 弥生時代前期 米原市教育委員会蔵・本館撮影 布を織る際、腰に固定して、経糸を挟んでいた道具。中央部に凹凸があり、組み合わせてセットで使用するが、木製のため朽ちやすく、2本とも完全な形で残存する例は非常に珍しい。全国的に見ても最も保存状態のよい資料である。
	5 緯打具【重要文化財】 よこうちぐ 朝日遺跡（愛知県清須市・名古屋市西区） 弥生時代中期 本館蔵・本館撮影 経糸の間に通した緯糸を手前に打ち込むための道具。ほぼ完全な形で残存しており、当時織っていた布幅より少し長いぐらいの大きさであることが分かる。
	6 経送具 たておくりぐ ようかいちじかた 八日市地方遺跡（石川県小松市） 弥生時代中期 石川県埋蔵文化財センター蔵・写真提供 布を織る際、経糸を固定するために、布送具と対にして足でつまっていたと考えられる板。弥生時代の経送具の中で最も古い資料である。

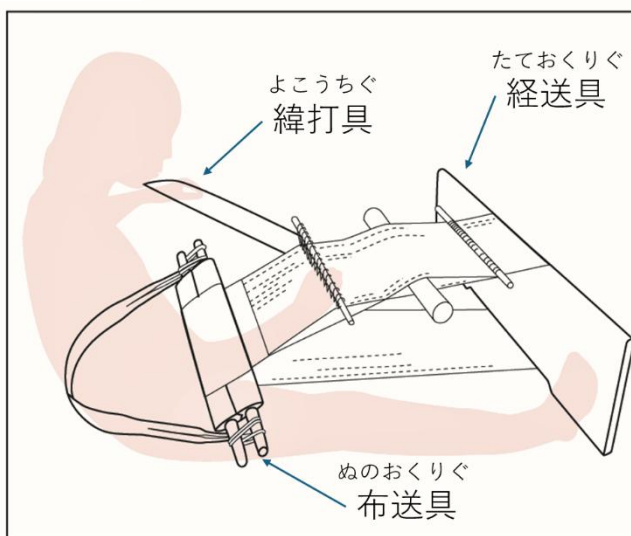


7 かんざし

朝日遺跡（愛知県清須市・名古屋市西区）
弥生時代中期 本館蔵・本館撮影

骨角製のかんざし。10 センチから 20 センチの長さで、現代と同じく髪の毛に飾る。飾りのないシンプルな物から、かんざし頭部に凹凸を設ける装飾性の高い物など様々な種類がある。

(参考)



布を織る道具

(東村純子2011『考古学からみた古代日本の紡織』より)